

倉敷や早島の医療機関 年内作成

在宅重症児の

ケア手順統一

基準は施設によって違いがあり、多くの施設で同様のケアを受けられるようにして患者家族に安心してもらう。全国でも先進的な試みという。

(中浜隆宏)

人工呼吸器をつけるなど医療的ケアを受けながら家で過ごす重症児を支援する倉敷市を中心にした医療機関が、ガーゼ交換や栄養注入の手順統一を目指している。手順や使う物品の支給

取り組むのは「倉敷地える会」。新生児集中重症児の在宅医療を考 治療室(NICU)の



「倉敷地区重症児の在宅医療を考える会」で、統一した医療的ケアの手順案を人形で実演する医師ら 倉敷中央病院

ガーゼ交換 栄養注入 介護家族の安心へ連携

ある倉敷中央病院(倉敷市美和)、在宅の重症児の短期入所が多い国立病院機構南岡山医療センター(早島町早島)など4病院を中心に、訪問診療に特化した診療所や訪問看護ステーションなどが参加している。

統一するのは、人工呼吸器をつけるため気管を交換した。これを踏まえて年内には統一した手順と、家族指導用のDVDを作成し、各施設を通じて普及を図る。

在宅の重症児は近年増えているが、支援できる医療機関は限りがあり、特定の施設に患者が集中している。こうした手順はそれぞれ

の主に三つのケア。倉敷中央病院総合周産期母子医療センターの渡部晋一主任部長は「医療機関の連携を強めて支援施設を増やした生活の場。安全性はもたせたい。自宅は医療でなく、立ち回れる立場にしたい。自立できる手順にするのが大切だ」と話している。